マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- Q&A集（電源が入らないとき）
- リカバリ（再セットアップ）
- デイリーケアとアフターケア

など

取扱説明書

- 電源の入れかた
- 各部の名前
- 増設メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリパックの交換
- システム環境の変更とは

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリで使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに- 8 リリース情報について」

もくじ

付録 137

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 他のマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』、《　》

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows Vistaです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows Vista

Windows Vista™ Home Premiumを示します。

ドライブ

DVD スーパーマルチドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

無線LANモデル

無線LAN機能が内蔵されているモデルを示します。

モデム内蔵モデル

モデムが内蔵されているモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、別紙の『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について「コントロールパネルホーム」に設定していることを前提に記載しています。「クラシック表示」になっている場合は、「コントロールパネルホーム」に切り替えてから操作説明を確認してください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Vista、Excel、OneNote、Outlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、インテル Core、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック Duo、メモリースティックPRO、メモリースティックPRO Duoは、ソニー株式会社の商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- xD-ピクチャーカード™は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- i.LINK、i.LINKロゴは商標です。
- HDMI およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- McAfee、VirusScanおよびマカフィーは米国法人McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- gooスティックは、NTTレゾナント株式会社の商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 インテル Centrino Duo プロセッサー・テクノロジーについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino Duo プロセッサー・テクノロジー搭載と呼びます。

- インテル® Core 2 Duo プロセッサー
- モバイル インテル® GM/PM965 Expressチップセット
- インテル® PRO/Wireless 3945ABGネットワーク・コネクション・ファミリー

6 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

この他の使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポート 0120-97-1048 にお問い合わせください。

7 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製(データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

8 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① [スタート] ボタン( ) → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

9 使い終わったとき

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合(増設メモリの取り付け/取りはずしや、バッテリパックの取り付け/取りはずしなど)は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

参照 スリープ/電源を切る『セットアップガイド』

10 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されなくなります。リカバリを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
- 指紋認証機能は、データやハードウェアの完璧な保護を保証しておりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 『東芝保証書兼お客様登録カード』は、「東芝保証書」と「お客様登録カード」を中央の切り取り線で切り離せます。「東芝保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。付属の『お客様登録カード』または弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

11 ［ユーザー アカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから［続行］または［許可］ボタンをクリックしてください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1 章

使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」やシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリディスクを作成する方法について説明します。

1 前のパソコンのデータを移行する －PC引越ナビ－

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- **システム**＊1
  Windows 98 SE／Windows Me／Windows 2000／Windows XP Home／Windows XP Professional／Windows Vista

＊1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以外のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。
Windows 98 SE…Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows Me…Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000…Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows XP Home…Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版
Windows XP Professinal…Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、「付録 1-1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できるメディアや環境を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- メディアを使用する
- ネットワーク（LAN）を使用する
- クロスケーブル（LAN）を使用する

前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

「PC引越ナビ」で使用できるメディアは次のとおりです。

- CD-R
- CD-RW
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+RW
- DVD-RAM
- USBフラッシュメモリ

本製品で使用できるメディアについては、「2章 6-1 使えるメディアを確認しよう」で確認してください。
前のパソコンでどのメディアが使用できるかを確認し、移行に使用するメディアを選択し、必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なメディアは、あらかじめフォーマットしてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、メディアの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のメディアを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」で移行できる設定とデータは、次のものです。

- **Internet Explorerの設定**
  - ・［お気に入り］フォルダの設定
  - ・cookie
  - ・RSSフィールド（Internet Explorer 7とInternet Explorer 7間の移行のみ）
  - ・ホームページ（スタートページ）の設定
  - ・ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定
- **Windows メールの設定**
  初期状態で登録されているメインユーザの次のデータを移行できます。
  - ・アドレス帳の内容
  - ・メールデータ
  - ・アカウント情報（メールアカウント、ニュースアカウント、ディレクトリサービスアカウント）
- **Microsoft Outlookの設定**
  ＊「Microsoft Outlook」は、市販の「Microsoft Office」を購入した場合に使用できます。
  - ・個人用フォルダに含まれるデータ
  - ・電子メールアカウント設定（Exchange Server、POP3、IMAP、HTTP）
  - ・その他の設定（個人アドレス帳、仕訳ルール（Outlook 2007では仕分けルール）、署名）
- **［ドキュメント］（Windows Vista以外では［マイドキュメント］）フォルダに保存されているファイル**
  「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名の［ドキュメント（マイドキュメント）］を移行できます。
- **デスクトップ上のファイル**
  「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名のデスクトップ上のファイルを移行できます。
- **任意のフォルダに含まれるファイル**
  移行したいファイルを指定することができます。指定はフォルダ単位で行います。

メモ

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC引越ナビ」の［詳細説明 引っ越し可能なデータ］画面で確認してください。
  ［PC引越ナビ　機能選択］画面で［PC引越ナビを初めて使う方は、こちらを選択してください。］をクリックすると、2ページ目に表示されます。
  知りたい項目のアイコンをクリックしてください。

お願い　操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

注意制限事項を確認する

次の手順で、「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。

1 デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。

2 画面下の ? をクリックする

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
目次で［注意制限事項］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

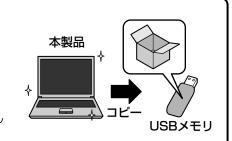
操作の流れ

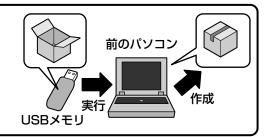
設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

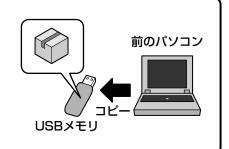
移行方法を決める

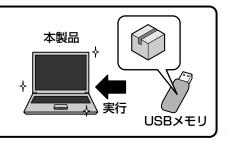
いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。
すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

1 起動方法

1 デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をクリックして起動することもできます。

2 ［同意する］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。

注意事項が表示されます。内容を確認し、［OK］ボタンをクリックしてください。

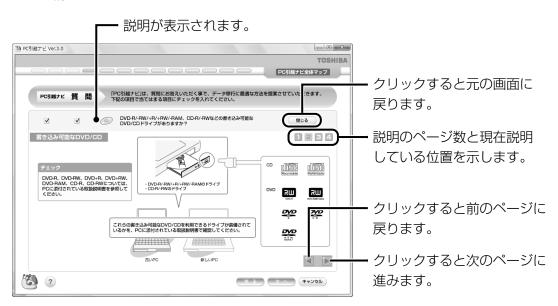
引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

説明画面について

■操作に困ったとき

［説明］ボタン、または［詳細説明］ボタンをクリックすると、表示している画面の詳細説明が表示されます。

■説明画面の操作方法

画面の構造は、次のとおりです。

2 リカバリディスクを作る

本製品には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリ（再セットアップ）ツールが内蔵されています。「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成し、あらかじめ、リカバリツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。
何らかのトラブルでハードディスクからリカバリできない場合でも、リカバリディスクからリカバリをすることができます。
リカバリディスクがない状態で、ハードディスクからリカバリが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。購入店、または保守サービスに相談してください。

リカバリディスクを作成できるメディア

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」では、次のメディアを使用できます。
作成するメディアの種類は、［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面の［ディスク構成］で確認できます。

- DVD-R
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+RW

あらかじめバックアップ用のメディアを用意してください。［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面で表示されるディスク番号が、必要な枚数です。複数枚使用する場合は、同じ規格のメディアで統一してください。

お願い メディアについて／メディアの使用推奨メーカ

＊ 使用できるメディアについては、「2章 6 CDやDVDを使う」を確認してください。
- 推奨するメーカのメディアを使用してください。
- 書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
- 規格に準拠したメディアを使用してください。

お願い リカバリディスクの作成にあたって

＊ リカバリディスクを作成するには、下記以外にもお願い事項があります。
「付録 1-10 CD／DVDにデータのバックアップをとる」のお願いを確認してください。
- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」ではDVD-RAMを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクなどを作成するときは、他のアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

リカバリツールのリカバリディスクを作成するには、以降の説明を参照してください。

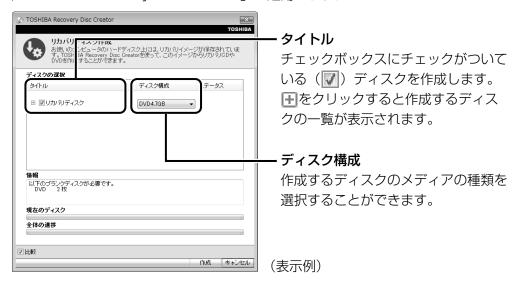
1 起動方法

ドライブが内蔵されていないモデルの場合、あらかじめCD／DVDドライブをパソコン本体に接続しておいてください。

参照 接続方法『CD／DVDドライブに付属の取扱説明書』

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［リカバリディスク作成ツール］をクリックする

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」が起動します。

（表示例）

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」で作成するディスクは、画面に表示される枚数分、メディアが必要になります。

2 リカバリディスクを作成する

1 ［タイトル］で作成するディスクをチェックする（ ）

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

2 ［作成］ボタンをクリックする

作成するリカバリディスクの確認とメディアのセットを求める画面が表示されます。

3 メディアをセットする

参照 CD／DVDのセット「2章 6-2 CD／DVDを使うとき（セット）」

4 ［OK］ボタンをクリックする

作成が開始され、［現在のディスク］に作成しているディスクの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

作成が終了すると、メディアが自動的に出てきます。
作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従ってメディアを入れ替えてください。

5 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

ディスク作成後は、作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスクに目印をつけてください。例えば、「XXXXXX ディスクXX（番号）」というように、レーベル面にフェルトペンなどで記載してください。リカバリをするとき、この番号通りにディスクを使用しないと、正しくリカバリされません。
必ずディスク番号がわかるようにして保管してください。

6 ［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。

リカバリディスクからリカバリをする操作手順については、『セットアップガイド』を参照してください。

参照 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」のお問い合わせ先
『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● ユーザパスワードを設定している場合

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

パスワードを入力して下さい。　　[　　　　　]

設定したユーザパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。

参照 パスワードについて「6章 2 パスワードセキュリティ」

メモ

- 購入時の設定では、パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- 「指紋認証ユーティリティ」でパワーオンセキュリティ機能を有効にし、指紋を登録すると、パワーオンセキュリティ機能が有効となり、パスワードを設定している場合に表示される「パスワードを入力して下さい。」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、パワーオンセキュリティ機能によってパスワードの認証が行われます。
  認証を5回失敗するか、一定時間が経過する、または BACKSPACE キーを押すと、「パスワードを入力して下さい。」が表示されます。

参照 指紋認証について「6章 3 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプ

● HDDパスワードを設定している場合

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

内蔵HDD1のユーザパスワードの入力　　[　　　　　]

設定したHDDパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- ユーザパスワードとHDD ユーザパスワードの両方を設定してある場合は、パスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、パスワードとHDD ユーザパスワードが同一の文字列の場合は、パスワードの認証終了後、HDD パスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「6章 2 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 キーボードの F12 キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなす

2 起動したいドライブを ↓ または ↑ キーで選択し、 ENTER キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

■あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の［OSの起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「6章 1 東芝HWセットアップ」

2 パソコンの使用を中断する

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

⚠警告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切ること**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを切った上で、必ずパソコンの電源を切ってください。
  スリープの状態では、プログラムされているタスクの処理を始めたり、作業中のデータを保存したりするためにパソコンのシステムが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

中断したときは

- スリープ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スリープ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
  ・スリープ中にバッテリをはずすこと
  また、スリープ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 スリープ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スリープはすばやく状態が再現されますが、バッテリを消耗します。作業を中断している間にバッテリの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープではそれまでの作業内容は消失します。ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリやバッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

参照 スリープの実行方法『セットアップガイド』

メモ

- FN＋F3キーを押して、スリープを実行することもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリやバッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし①、 にポインタをあわせる②

2 表示されたメニューから［休止状態］をクリックする

メニューが表示されない場合は、 をクリックしてください。

Power LEDが点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

メモ

- FN＋F4キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じるときに、電源を切る（電源オフ）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ モバイルコンピュータ］をクリックする

3 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

4 ［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。

5 ［変更の保存］ボタンをクリックする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディスプレイを閉じるときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ モバイルコンピュータ］をクリックする

3 ［ コンピュータを閉じるときの動作の変更］をクリックする

4 ［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］［シャットダウン］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。

5 ［変更の保存］ボタンをクリックする

ディスプレイを閉じると、設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

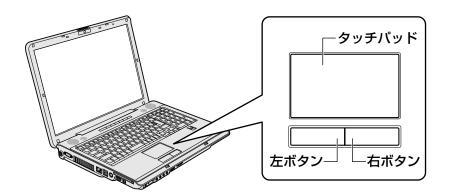
3 タッチパッド

1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

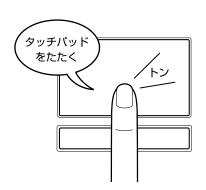
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。
ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

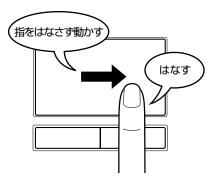
お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

1 タッピングの方法

慣れてきたら、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。

❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。

2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインタの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

3 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2 タッチパッドの設定方法

［マウスのプロパティ］では、タッチパッドやポインタなどの各種設定ができます。
タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

1 ［デバイス設定］タブで［設定］ボタンをクリックする

［デバイス設定］画面が表示されます。

2 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする

画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。

項目名の左に（ ⊞ ）が表示されている場合、項目名をダブルクリックすると、さらに細かい設定項目が表示されます。

役立つ操作集

タッチパッドを無効／有効にするには

キー操作でタッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

FN ＋ F9 キーを押すごとに、タッチパッドの無効／有効が切り替わります。

FN ＋ F9 キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから手を離してから行ってください。

FN ＋ F9 キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

4 キーボード

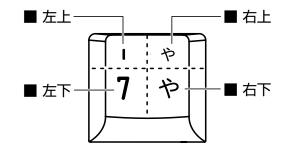
ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

＊モデルによっては、キーボードのマーク（アイコン）や文字のサイズが異なるものがあります。

PRTSC(プリントスクリーン)
<SYSRQ(システムリクエスト)>キー
PAUSE(ポーズ)<BREAK(ブレーク)>キー
BACKSPACE
(バックスペース)キー
ENTER(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
SCROLL ROCK(スクロールロック)キー
INS(インサート)キー
文字の入力モードを
挿入/上書きに切り替えるときなどに使う
DEL(デリート)キー
文字を削除するときなどに使う
HOME(ホーム)キー/PGUP(ページアップ)キー/END(エンド)キー/PGDN(ページダウン)キー
行やページの最初または最後にカーソルを移動したり、ページごとに表示を送ったりするときなどに使う
Numeric Mode
(ニューメリックモード)LED
テンキーの数字ロック状態を示す
NUM LOCK(ナムロック)キー
テンキーを数字入力状態にする
ENTER(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
矢印キー
テンキー
数字の入力に使う
また、数字ロックを解除して矢印キーなどとして使う
SHIFT(シフト)キー
CTRL(コントロール)キー
アプリケーションキー
タッチパッド手前の右ボタンや、マウスの右ボタンを押すことと同じ動作を行いたいときに使う

2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

左上	SHIFT キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。大文字ロック状態にすると、大文字も入力できます。
右上	かな入力ができる状態で SHIFT キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（そくおん）（小さい「っ」）、拗音（ようおん）（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）が入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards」は、マウス操作で簡単にホットキー機能の実行や東芝製のユーティリティを起動することができるユーティリティです。
デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

■操作方法

1 ポインタをデスクトップ画面の上の方へ移動する

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

（表示例）

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインタを合わせる

ポインタを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

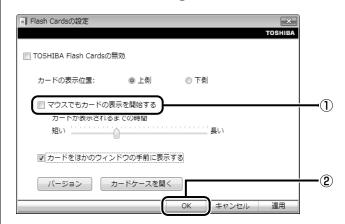
選択した項目に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

■マウス操作でのカードの表示をやめる

ポインタをデスクトップ上部に合わせても「TOSHIBA Flash Cards」が表示されないように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cardsの設定］をクリックする

2 ［マウスでもカードの表示を開始する］のチェックをはずし①、［OK］ボタンをクリックする②

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cards ヘルプ］をクリックする

キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

❏ FNキーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN＋ESC ＜スピーカのミュート＞	FNキーを押したまま、ESCキーを押すたびに内蔵スピーカやヘッドホンの音量のミュート（消音）のオン／オフを切り替えます。
FN＋SPACE ＜本体液晶ディスプレイの解像度切替え＞	FNキーを押したまま、SPACEキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
FN＋F1 ＜インスタントセキュリティ機能＞	コンピュータをワークステーションロック状態にします。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① ログオンするユーザ名をクリックする ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、ENTERキーを押す
FN＋F2 ＜電源プランの設定＞	FN＋F2キーを押すと、設定されている電源プランが表示されます。 FNキーを押したまま、F2キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN＋F3 ＜スリープ機能の実行＞	FNキーを押したまま、F3キーを押し直し、［スリープ］アイコンが大きい状態で指をはなすと、スリープ機能が実行されます。
FN＋F4 ＜休止状態の実行＞	FNキーを押したまま、F4キーを押し直し、［休止状態］アイコンが大きい状態で指をはなすと、休止状態が実行されます。
FN＋F5 ＜表示装置の切替え＞	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 7 外部ディスプレイの接続」
FN＋F6 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を下げる＞	FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F7 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を上げる＞	FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F8 ＜無線LAN オン／オフ機能＞	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、FNキーを押したまま、F8キーを押すたびに使用する無線LANのON／OFFを切り替えます。 ＊無線LANモデルのみサポートしています。
FN＋F9 ＜タッチパッド オン／オフ機能＞	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度FN＋F9キーを押します。 参照 詳細について 「本章 3-2-タッチパッドを無効／有効にするには」

キー	内容
FN＋1 <縮小>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 <拡大>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」
「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。

- **起動方法**
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックする
- **ヘルプの起動方法**
  ①「TOSHIBA Smooth View」を起動後、画面右上の［ヘルプ］（ ）ボタンをクリックする
  ② 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする
- **使用方法**
  ① FNキーを押したまま、1キーまたは2キーを押す
  画面やアイコンなどを縮小するときは1キー、拡大するときは2キーを押します。

❏ 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	CTRL＋SHIFT＋ESC	［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT＋PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

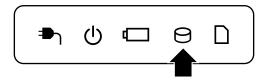
5 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが1台内蔵されています。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い **操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1-3 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk ⊖ LEDが点灯します。

USB接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk ⊖ LEDは点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

6 CDやDVDを使う
― ドライブ ―

本製品には、DVDスーパーマルチドライブが内蔵されています。
ドライブには次のマークが入っています。

＊ マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R＊1、DVD+RW、DVD+R＊2、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

＊1 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）を含みます。
＊2 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 使えるメディアを確認しよう

使用できるCD／DVDの詳細と書き込み速度については、「付録 2 メディアについて」と『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』を確認してください。
使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる　×：使用できない

	読み出し＊1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-ROM	○	×
DVD-R	○＊3	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD+R	○＊3	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能＊2

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊3 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

メモ

- メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWにデータをコピーするには、本製品に添付されている「TOSHIBA Disc Creator」を使います。［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creator］から起動します。

データをコピーする（書き込む）際に気をつけていただきたいことがあります。また、それぞれ対応しているメディアが異なります。以降の説明をよくお読みになってから書き込んでください。

Windows Vistaに用意されているバックアップ機能については、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

メモ

- DVD-RAMにデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを［DVD-RAMドライブ］にコピーしてください。
- CD-R、CD-RWなどにバックアップをとった場合、そのデータは書き込み不可になっている場合があります。この場合、バックアップをとったデータを使うときには、1度ハードディスクドライブなどにコピーしてからそのデータを右クリック→［プロパティ］で、［読み取り専用］のチェックをはずしてください。

お願い　CD／DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 1-10 CD／DVDにデータのバックアップをとる」を確認してください。

「TOSHIBA Disc Creator」で使用できるメディアは次のとおりです。

○：使用できる　×：使用できない

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○＊1・2	○＊1	○＊1・3	○＊1	×

＊1 DVD-Video、DVD-Audio の作成はできません。また、DVDプレーヤなどで使用することはできません。

＊2 DVD-R DLを含みます。なお、DVD-R DLには追記ができません。

＊3 DVD+R DLを含みます。

DVD-Videoの再生について

本製品では、ドライブにDVD-Videoをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video再生ソフトウェアとして、「TOSHIBA DVD PLAYER」が用意されています。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA DVD PLAYER］→［TOSHIBA DVD PLAYER］から起動します。

お願い　DVD-Videoの再生にあたって

- あらかじめ、「付録 1-11 DVD-Videoについて」を確認してください。

2 CD／DVDを使うとき（セット）

CD／DVDは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い CD／DVDの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-4 CDやDVDについて」、「付録 2-1 使えるCDを確認しよう」、「付録 2-2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。

メモ　セットする前に確認しよう

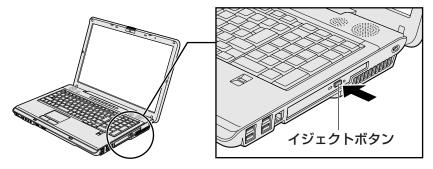
- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVDの種類によっては、取り出すときWindows Vistaが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
  よく確認してからCD／DVDをセットしてください。
  このWindows Vistaの機能を無効にするには、次のように操作してください。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする
  ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
  ドライブのプロパティ画面が表示されます。
  ③［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする
  ④［共通の設定］画面で［ディスクの取り出し時のUDFセッションを自動的に閉じる］のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする

ドライブに関する表示

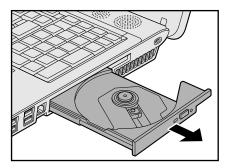
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

1 パソコン本体の電源を入れる

Windowsが起動します。

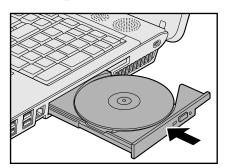
2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

3 CD／DVDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

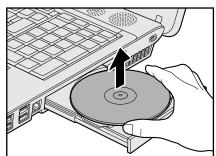
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

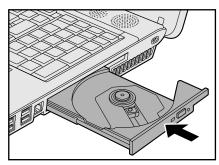
2 イジェクトボタンを押す

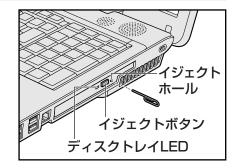
ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

ディスクトレイが出てこない場合

電源を切っているときは、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。
次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押した後すぐにディスクトレイは出てきません。ディスクトレイLEDの点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

4 DVD-RAMをフォーマットする

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、「付録 1 - 4 - DVD-RAMのフォーマットについて」を確認してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.5」「UDF2.01」「UDF2.0」「UDF1.5」「UDF1.02」「FAT32」です。

DVD-RAMのセクタの一部に不具合が生じた場合などに、通常のフォーマットとは違う「物理フォーマット」を行う場合があります。通常、購入したばかりなどのDVD-RAMに対しては、物理フォーマットを行う必要はありません。
物理フォーマットに対して、通常のフォーマットを「論理フォーマット」と呼びます。
なお、物理フォーマットを行ったあとには、論理フォーマットが必要となります。

1 論理フォーマット

論理フォーマットについては、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

2 物理フォーマット

物理フォーマットを行うには、非常に時間がかかります。

1 物理フォーマットするDVD-RAMをセットする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［DVD-RAMユーティリティ］をクリックする

［東芝DVD-RAMユーティリティ］画面が表示されます。

3 ［開始］ボタンをクリックする

以降、画面に表示されるメッセージに従ってください。
物理フォーマットをした後は、論理フォーマットが必要です。

7 画面を見やすく調整する
－ ディスプレイ －

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1680×1050ドット）を内蔵しています。
ドットは画素数を表します。
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。

❏ 輝度の調整方法

FN＋F6：FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

FN＋F7：FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

8 サウンド

1 スピーカの音量を調整する

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または音量ミキサから調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

1 パソコン本体のボリュームダイヤルをまわす

ボリュームダイヤルの位置は、『取扱説明書 1章 2 各部の名称』で確認してください。

2 音量ミキサから調整する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサ］画面が表示されます。

3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をクリックすると消音（ミュート）になります。

（表示例）

❏ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカの音量を調整します。
Windowsのサウンド	Windowsのプログラムイベントで再生されるサウンド設定の音量を調整します。
CEC_MAIN	Webカメラの音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

3 Realtek HDオーディオマネージャについて

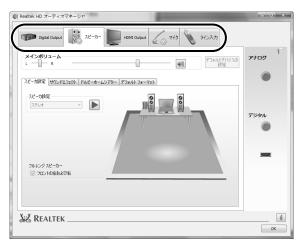
Realtek HD オーディオマネージャでは、オーディオ機能のいろいろな設定を変更することができます。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 設定したい機能のタブをクリックする

それぞれのタブでは、次の機能が設定できます。

■［Digital Output］タブ

外部機器などを、光デジタルケーブル経由でS/PDIF出力端子に接続して、再生を行う場合に選択します。利用できる外部機器は、光デジタル入力端子を備えたホームシアターシステムやオーディオアンプなどです。

■［スピーカー］タブ

パソコンの内蔵スピーカやヘッドホンを使う場合に選択します。

■［HDMI Output］タブ

外部機器などを、HDMIケーブル経由でHDMI出力端子に接続して、再生を行う場合に選択します。利用できる外部機器は、HDMI端子を備えたテレビやオーディオアンプです。

■［マイク］タブ

コンピュータの内蔵マイクや、外部マイクをマイク入力端子に接続して、録音を行う場合に選択します。

■［ライン入力］タブ

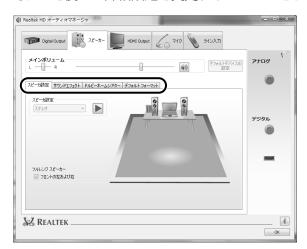
外部機器などを、オーディオケーブル経由でオーディオ入力端子に接続して、録音を行う場合に選択します。利用できる外部機器は、アナログオーディオ出力端子（ライン出力端子）を備えたオーディオ関連機器です。

［ライン入力］タブは、オーディオケーブルをオーディオ入力端子に接続しないと表示されません。

4 各ボタンやタブをクリックし、オーディオ機能を調整する

手順 3 でクリックした機能のタブの中には、次のような設定ボタンやタブがあり、それらを使って詳細設定を変更することができます。

■［メインボリューム］

スライダーバーを左右にドラッグし、音量を調節します。ボタンをクリックすると、消音（ミュート）のオン／オフを切り替えます。

■［デフォルトデバイスの設定］ボタン

クリックすると、再生装置（デバイス）や録音装置（デバイス）として設定します。初期状態では、再生装置（デバイス）として［スピーカー］、録音装置（デバイス）として［マイク］があらかじめ設定されています。

■ ボタン

クリックすると、ハードウェアやソフトウェア、言語などの情報を確認することができます。

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

■［スピーカ設定］タブ

手順 3 で［スピーカー］タブを選択した場合に、表示されます。▶ボタンをクリックすると、内蔵スピーカやヘッドホンから正しくサウンドが再生されるかを確認することができます。

■［サウンドエフェクト］タブ

次の項目を設定することで、音響のシミュレートをしたり、カラオケ用の設定をしたりします。

- 環境
  様々な場所の音声の反響をシミュレートします。メニューからお好みのプリセットを選択してください。
- イコライザ
  様々なジャンルの音楽の周波数特性をシミュレートします。メニューからお好みのプリセットを選択してください。
- カラオケ
  人の声の周波数成分を低く設定することで、音楽からボーカルを聞こえにくくします。矢印のボタンで、音声のキーを上下させることができます。

■［ドルビーホームシアター］タブ

ドルビーホームシアター（Dolby® Home Theater）の機能をオン／オフに設定します。手順 3 で選択したタブによって、表示される機能名が変わり、次のように表示されます。

- ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby® Virtual Speaker）
  5.1チャンネルサラウンドサウンドを2台のスピーカだけで再生させるための機能です。
- ドルビーヘッドフォン（Dolby® Headphone）
  5.1チャンネルサラウンドサウンドをヘッドホンで再生させるための機能です。
- ドルビーデジタルライブ（Dolby® Digital Live）
  コンピュータ上のステレオ音声をDolby Digital形式に変換し、Dolby DigitalをサポートしたAVアンプやデジタルスピーカなどに出力する機能です。ドルビーデジタルライブを有効にするには、Digital OutputもしくはHDMI Outputにおいて、デフォルトフォーマットのメニューからDolby Digital Live（5.1 Surround）を選択するか、Dolby Digital Liveのロゴをクリックします。

■［マイク効果］タブ

手順 3 で［マイク］タブを選択した場合に、表示されます。

- ノイズ抑制
  周辺の雑音やファンが回る音などを抑制し、人の声を聞こえやすくします。
- 音響エコーキャンセル
  音声がスピーカから直接マイクに入ることで発生するハウリングや音声エコーを抑制します。

■［デフォルト フォーマット］タブ

サウンドのサンプリング周波数やビット深度を変更することができます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

9 いろいろなメディアカードを使う
– ブリッジメディアスロット –

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SDメモリカード
- SDHCメモリカード
- メモリースティック
- メモリースティックPRO
- マルチメディアカード
- xD-ピクチャーカード

次のメディアカードは、カード専用のアダプタを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。

- miniSDメモリカード（miniSDアダプタ）

アダプタの装着や使用方法は、メディアカードの取扱説明書を確認してください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2-3 メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メディアカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモリカードとSDHCメモリカードは、再フォーマットをするときに「東芝SDメモリカードフォーマット」も使用できます。
「東芝SDメモリカードフォーマット」については、「本項-「東芝SDメモリカードフォーマット」を使ってフォーマットする」をご覧ください。

「東芝SDメモリカードフォーマット」を使ってフォーマットする

お願い フォーマットするにあたって

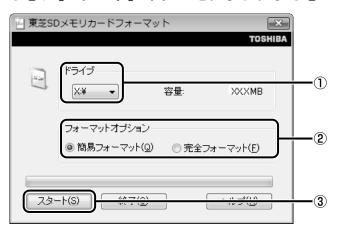
- あらかじめ、「付録 2-3-2 - SDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットについて」を確認してください。

1 SDメモリカード／SDHCメモリカードをセットする

2 SDメモリカード／SDHCメモリカードを使用するアプリケーションを起動している場合は終了する

3 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SDメモリカードフォーマット］をクリックする

［東芝SDメモリカードフォーマット］画面が表示されます。

4 フォーマットしたいSDメモリカード／SDHCメモリカードがセットされているドライブを確認し①、必要に応じてフォーマットの種類を設定し②、［スタート］ボタンをクリックする③

- **簡易フォーマット**
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- **完全フォーマット**
  SDメモリカード／SDHCメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

5 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。
画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
フォーマットを終了する場合は、［終了］ボタンをクリックしてください。

2 メディアカードのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

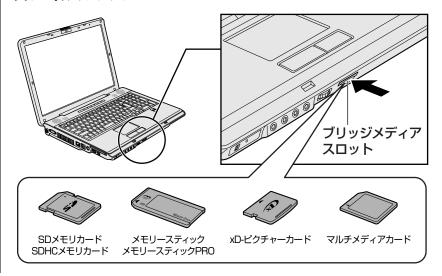
パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LEDが点灯します。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2-3-1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護*1を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

＊1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする

［コンピュータ］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

SDメモリカード ：セキュリティで保護された記録域デバイス
SDHCメモリカード ：セキュリティで保護された記録域デバイス
メモリースティック ：MemoryStick
メモリースティックPRO ：リムーバブルディスクまたはMemoryStick Pro
xD-ピクチャーカード ：リムーバブルディスク、XD Pictureカード、XD Card
マルチメディアカード ：リムーバブルディスク、MMCカード、MMC Card

（表示例）

セットしたメディアの内容が表示されます。

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

① ［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする
［コンピュータ］画面が表示されます。
② メディアカードのアイコンを右クリックし①、［安全に取り外す］をクリックする②

（表示例）

通知領域に［ハードウェアの取り外し］のメッセージが表示されます。

2 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3章

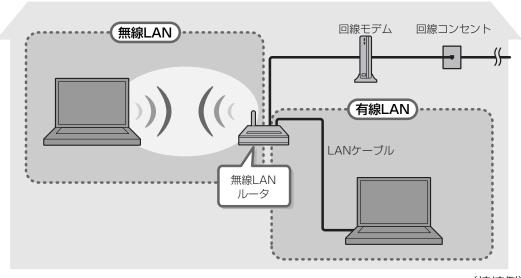
ネットワークの世界へ

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。
ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンタを共有したいときや、ADSLモデムでインターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っているなど、複数のパソコンがあるときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 2 ブロードバンドで接続する」を参照してください。

■無線LAN　＊無線LANモデルのみ

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。
無線LANルータや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンタなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

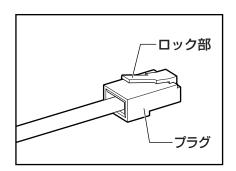
2 ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN(ラン)機能が内蔵されています。
本製品のLANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムなどをLANケーブルで接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet(ギガビット イーサネット)(1000BASE-T)、Fast Ethernet(ファスト イーサネット)(100BASE-TX)、Ethernet(イーサネット)(10BASE-T)に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境(接続機器、ケーブル、ノイズなど)により、自動で切り替わります。

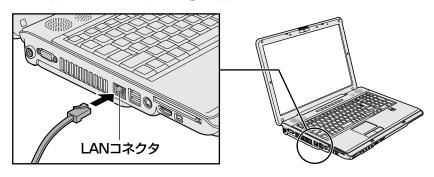
1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-5 有線LANについて」を確認してください。

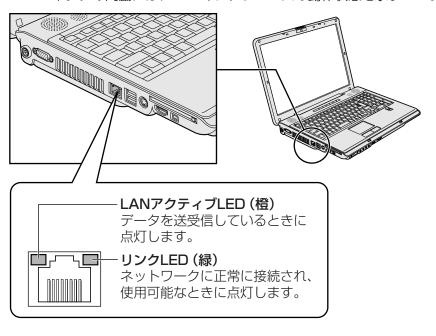
LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。

2 ADSL接続を設定する方法

接続に必要な設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。プロバイダから、接続に必要なCD-ROMなどが支給されている場合は、そちらをご利用ください。

3 ワイヤレス（無線）LANを使う

＊無線LANモデルのみ

本製品の無線LANモジュールの仕様については、『取扱説明書 付録 5-1 無線LANの概要』と『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

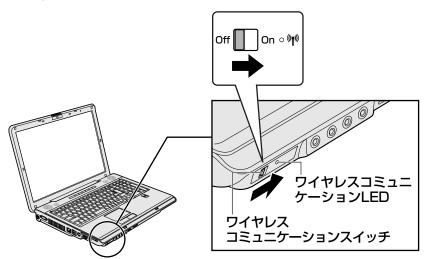
お願い 無線LANのご使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-6 無線LANについて」を確認してください。
  セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。

1 無線LANを使ってみよう

⚠ 警 告

- **パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ側にし、必ずパソコン本体の電源を切ること**
  ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
  また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 1 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree
本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳細については、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFreeファーストユーザーズガイド］をクリックする
- **「ConfigFree」の起動方法**
  購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］をクリックする

4 ダイヤルアップで接続する

＊モデム内蔵モデルのみ

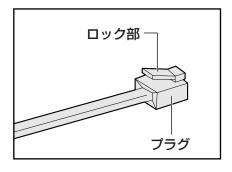
本製品の内蔵モデムを使って、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続することができます。内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

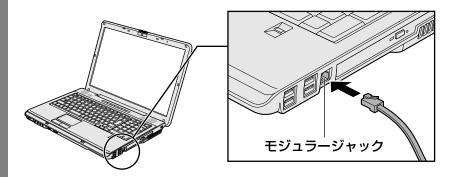
お願い　内蔵モデムの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 内蔵モデムについて」を確認してください。

1 モジュラーケーブルを接続する

モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、モジュラープラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックプラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

3章 ネットワークの世界へ

1 **モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む**

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
LANケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モジュラーケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、モジュラージャックとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

2 **もう一方のモジュラーケーブルのプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む**

2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

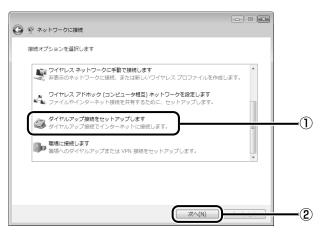
ここでは、すでに契約しているプロバイダにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。
設定は管理者アカウントで行ってください。
接続に必要な設定内容は、契約しているプロバイダの取扱説明書を確認してください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［接続先］をクリックする**

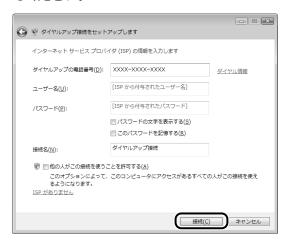
［接続するネットワークを選択します］画面が表示されます。

2 **［接続またはネットワークをセットアップします］をクリックする**

［接続オプションを選択します］画面が表示されます。

3 **［ダイヤルアップ接続をセットアップします］を選択し、［次へ］をクリックする**

［インターネットサービスプロバイダ（ISP）の情報を入力します］画面が表示されます。

4 **各項目を設定し、［接続］をクリックする**

［ダイヤルアップの電話番号］［ユーザー名］［パスワード］など、それぞれを入力してください。

ダイヤルアップ接続が実行されます。

接続が完了した後［閉じる］ボタンをクリックすると、環境を設定する画面が表示されます。画面に従って、各項目を設定してください。

3 海外でインターネットに接続するには

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、『取扱説明書 付録 4 技術基準適合について』を参照してください。
海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で内蔵モデムの地域設定が必要です。

設定は管理者アカウントで行ってください。それ以外のユーザアカウントで起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できません。

日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると、電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。
購入時は「日本」に設定されています。

設定方法

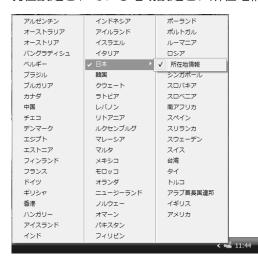
1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が通知領域に表示されます。

（表示例）

2 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。
上の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
現在設定されている地域設定と、所在地情報名にチェックマークがつきます。

（表示例）

3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

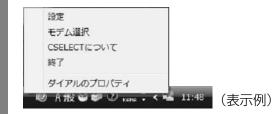
- **地域名を選択した場合**
  モデムの地域設定を行った後、新しく所在地情報が作成されます。この場合、現在の所在地情報は新しく作成されたものになります。
- **所在地情報名を選択した場合**
  その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

その他の設定

次のような設定ができます。

1 **通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する**

（表示例）

メモ

● 通知領域に［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が表示されていない場合は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックしてください。

❏ 設定

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、注意の画面を表示します。

❏ モデム選択

COMポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

❏ ダイアルのプロパティ

［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

4 章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■内蔵方式のもの

- メモリ
- バッテリ

■外付け方式のもの

本製品のインタフェースにあった周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インタフェースなどの規格が異なることがあります。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的にあった機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インタフェースの仕様」

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1-8 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- メモリ
  参照 メモリの増設『取扱説明書 1章 3 メモリの増設』
- USB対応機器
  参照 USB対応機器「本章 2 USB対応機器を使う」
- i.LINK（IEEE1394）対応機器
  参照 i.LINK（IEEE1394）対応機器「本章 3 i.LINK（IEEE1394）対応機器を使う」
- テレビ
  参照 テレビの接続「本章 6 テレビの接続」
- 外部ディスプレイ
  参照 外部ディスプレイの接続「本章 7 外部ディスプレイの接続」
- マイクロホンとヘッドホン／オーディオ入力端子／光デジタル対応機器（MDレコーダ、MDコンポなど）
  参照 「本章 4 マイクロホンやヘッドホンを使う／本章 8 オーディオ機器の接続／本章 9 光デジタル対応機器の接続」
- ExpressCard
  参照 ExpressCard「本章 5 ExpressCardを使う」

2 USB対応機器を使う

USB対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンタ
- USB対応スキャナ
- USBフラッシュメモリなど

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

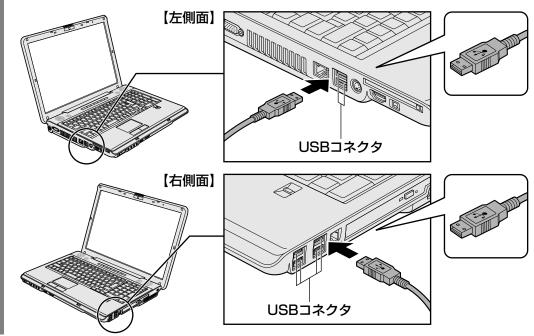
1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

4章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすUSB対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

3 i.LINK（IEEE1394）対応機器を使う

i.LINK（IEEE1394）コネクタ（i.LINKコネクタとよびます）に接続します。
i.LINK（IEEE1394）対応機器（i.LINK対応機器とよびます）には次のようなものがあります。

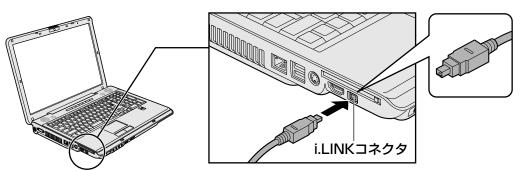
- i.LINK対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK対応ハードディスクドライブ
- i.LINK対応MOドライブ
- i.LINK対応プリンタ　　など

i.LINK対応機器の詳細については、『i.LINK対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - i.LINK（IEEE1394）対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINKコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグをi.LINK対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないi.LINK対応機器は、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすi.LINK対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 パソコン本体とi.LINK対応機器に差し込んであるi.LINKケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム（OS）がWindows Vistaでi.LINKコネクタがあるパソコン同士をi.LINK（IEEE1394）ケーブルで接続すると、2台で通信ができます。ネットワークの設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体のi.LINKコネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器のi.LINKコネクタに接続する

4 マイクロホンやヘッドホンを使う

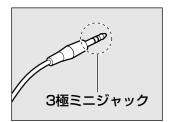
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 サウンド機能について「2章 8 サウンド」

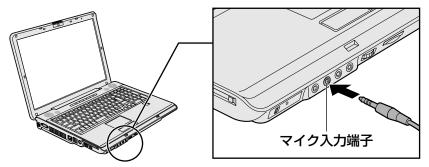
1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

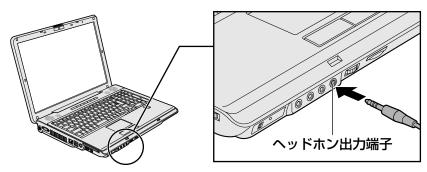
お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsの音量ミキサで調節してください。

参照 音量の調節「2章 8 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

5 ExpressCardを使う

目的に合わせたExpressCardを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

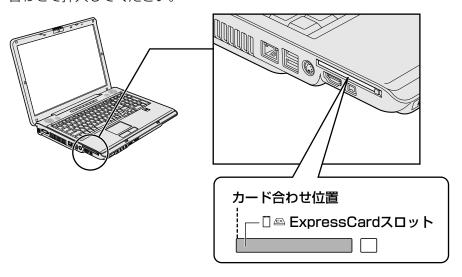
1 ExpressCardを使う前に

本製品は、ExpressCard Standard準拠のExpressCard/34、ExpressCard/54対応のカードを使用できます。
ExpressCardは基本的に電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用しているExpressCardがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『ExpressCardに付属の説明書』を確認してください。

操作にあたって

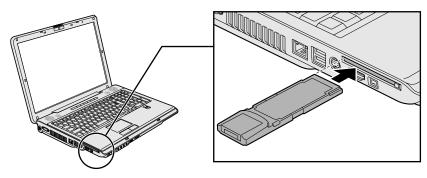
- あらかじめ、「付録 1 - 8 - ExpressCardの操作にあたって」を確認してください。

2 ExpressCardを使う

ExpressCardを使う場合、パソコン本体のExpressCardスロットにExpressCardを取り付けてください。
ExpressCardを取り付けるときは、ExpressCardスロットの左端にExpressCardの左端を合わせて挿入してください。

1 取り付け

1 ケーブルの接続が必要な場合は、ExpressCardにケーブルを付ける

2 ExpressCardの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、ExpressCardを使用できない、またはExpressCardが壊れる場合があります。
カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

＊イラストは、ExpressCard/34対応のカードの例です。

2 取りはずし

1 ExpressCardの使用を停止する

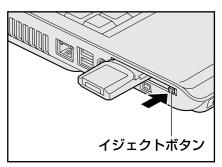
①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

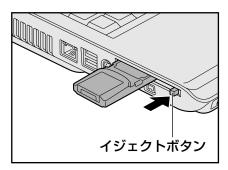
＊通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないExpressCardは、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

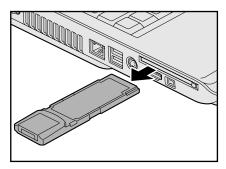
②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすExpressCard）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

3 もう1度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

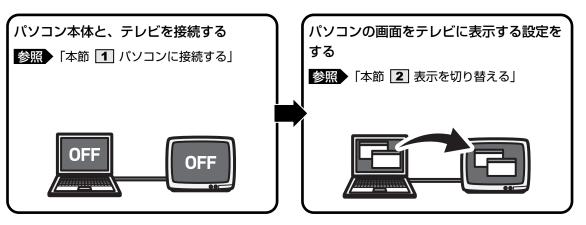
6 テレビの接続

本製品の次のコネクタとテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

- S-Video（エス ビデオ）出力コネクタ
- HDMI（エイチディーエムアイ）出力端子

■パソコン上で再生中のDVDを、テレビに表示する

「TOSHIBA DVD PLAYER」でのDVD再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。

メモ

- テレビの代わりに、外部ディスプレイを接続して表示することもできます。

■接続の前に

テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

- **S-Video出力コネクタで接続する場合**
  S映像入力端子があるテレビを接続できます。
  接続するS端子ケーブルは、市販の4ピンコネクタのケーブルを使用してください。
- **HDMI 出力端子で接続する場合**
  HDMI入力端子があるテレビを接続できます。
  接続するHDMI 端子ケーブルは、市販のものを使用してください。

メモ

- S-Video出力コネクタとHDMI 出力端子は、同時に使用できません。
- S-Video出力コネクタとHDMI 出力端子のテレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。

1 パソコンに接続する

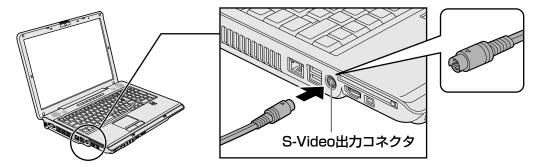
お願い テレビ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

S-Video出力コネクタに接続する

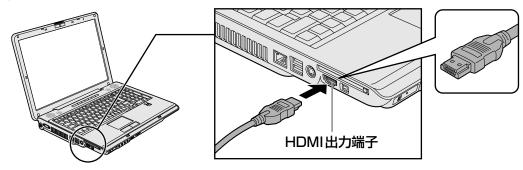
音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

1 S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のS-Video出力コネクタに差し込む

2 S端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのS映像入力端子に差し込む

3 テレビの電源を入れる

4 パソコン本体の電源を入れる

HDMI 出力端子に接続する

1 HDMI 端子ケーブルのプラグをパソコン本体のHDMI 出力端子に差し込む

2 HDMI 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのHDMI 入力端子に差し込む

3 テレビの電源を入れる

4 パソコン本体の電源を入れる

❏ 音声の出力をパソコン本体のスピーカからテレビに切り替える

HDMI 端子ケーブルで接続したテレビから音声を出すには、設定変更が必要です。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［HDMI Output］タブで［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする

（表示例）

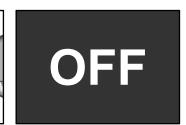
4 ［OK］ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。テレビを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 3 で［スピーカー］タブの［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックしてください。

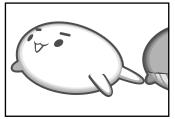
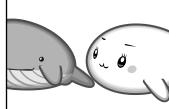
2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切替えを行うことで変更できます。

■本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

● **クローン表示**
2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

● **デュアルビュー(Dualview)表示＊**
2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。
＊デュアルビュー表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

メモ

- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
  起動中は、表示装置を切り替えることができません。

1 方法1－コントロールパネルで設定する

1 ［スタート］ボタン（　）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［　その他のオプション］をクリックする

3 ［　NVIDIAコントロールパネル］をクリックする

初めてクリックしたときは、［NVIDIAコントロールパネル ビューの選択］画面が表示されます。
［標準］をチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。
［カテゴリの選択］画面が表示されます。

4 ［表示］をクリックする

5 ［複数のディスプレイの設定］をクリックする

6 ［複数のディスプレイの設定］画面で「設定方法」のいずれかに設定する

「設定方法」に進んでください。

❏ 設定方法

■本体液晶ディスプレイ、またはテレビだけに表示

① ［1.使用するnViewディスプレイ モードを選択します。］で［1台のディスプレイのみ使用する（シングル）］を選択する

② ［2.使用するディスプレイを選択します。］で次の項目を選択する

- 本体液晶ディスプレイに表示する場合
  Digital Flat Panel
- HDMI 出力端子に接続してテレビに表示する場合
  HDMI*1
  ＊1 実際には、接続しているHDMI 機器の名前が表示されます。
- S-Video出力コネクタに接続してテレビに表示する場合
  TV

③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［はい］ボタンをクリックしてください。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

① [1.使用するnViewディスプレイ モードを選択します。] で次のいずれかを選択する
- ・[両方のディスプレイで同じ（クローン)]：クローン表示
- ・[互いに独立して設定（Dualview)]：デュアルビュー表示

② [2.使用するディスプレイを選択します。] でディスプレイを選択する
- ・HDMI出力端子に接続した場合
  Digital Flat Panel＋HDMI *[1]
  ＊1 実際には、接続しているHDMI機器の名前が表示されます。
- ・S-Video出力コネクタに接続した場合
  Digital Flat Panel＋TV

③ [適用] ボタンをクリックする
メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをクリックしてください。

同時表示の場合は引き続き、画面の設定を行います。

① [NVIDIAコントロールパネル] 画面で [スタート ページ] ボタン（ ）をクリックする
[カテゴリの選択] 画面に戻ります。

② [ビデオとTV] をクリックする

③ [信号またはHDフォーマットの変更] をクリックする

④ [3.使用する信号フォーマットを選択します。] で選択する
接続した機器の信号フォーマットに合わせて、一覧から選択します。

・HDMI出力端子に接続した場合

国名/地域	信号形式	設定される画面モード
いずれでも	480p	720×480, True Color (32ビット), 60ヘルツ
	576p	720×576, True Color (32ビット), 50ヘルツ
	720p	1280×720, True Color (32ビット), 60ヘルツ
	1080p	1920×1080, True Color (32ビット), 60ヘルツ

＊選択可能な信号形式は接続されているHDMI機器によって異なります。

・S-Video出力コネクタに接続した場合

国名/地域	信号形式
いずれでも	M（日本)/NTSC
	M/NTSC
	B/PAL
日本	M（日本)/NTSC

国内のテレビの場合は「M（日本)/NTSC」です。
その他の信号フォーマットが表示されることがありますが、選択しないでください。

⑤ [適用] ボタンをクリックする
メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをクリックしてください。

2 方法2 － FN＋F5キーを使う

- **表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法**
  現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。
  表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置を選択する

FNキーを押したままF5キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。

＊ 画面はテレビと外部ディスプレイを接続した場合のカードです。LCDまたは接続している表示装置のアイコンのみ表示されます。

＊ アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切替え可能なパターンのみ表示されます。

上のカードは現在の表示装置を、下のアイコンは切替え可能なパターンを示しています。
FNキーを押したままF5キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、FNキーをはなすと表示装置が切り替わります。

アイコンは、左から次の意味を表しています。

- LCD..............本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD＋CRT..............本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにクローン表示
- CRT..............外部ディスプレイだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD＋HDMI..............本体液晶ディスプレイとHDMI 出力端子に接続したテレビにクローン表示
- HDMI..............HDMI 出力端子に接続したテレビだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD＋TV..............本体液晶ディスプレイとテレビにクローン表示
- TV..............テレビだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD+CRT Extended Desktop.......本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにデュアルビュー表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- LCD+HDMI Extended Desktop......本体液晶ディスプレイとHDMI 出力端子に接続したテレビにデュアルビュー表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- LCD+TV Extended Desktop..........本体液晶ディスプレイとテレビにデュアルビュー表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。

メモ

- 表示装置をテレビに切り替えるときは、「方法1」で使用するディスプレイを、正しく設定してください。

❑ デュアルビュー表示でプライマリモニタを切り替える方法

現在の表示装置がデュアルビュー（Extended Desktop）表示に設定されている場合、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコン（ ）が表示されます。

＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）とテレビを接続した場合のカードです。LCDまたは接続している表示装置のアイコンのみ表示されます。

（表示例）

FNキーを押したままF5キーを数回押しなおし、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンが大きい状態で、FNキーをはなすと、表示装置が切り替わります。
複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは［スタート］ボタン（ ）→ ボタンをクリックし、表示されたメニューから［ログオフ］を選択してください。
［ユーザーの切り替え］で切り替えた場合は、FN＋F5キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切替え『Windowsヘルプとサポート』

3 パソコンから取りはずす

パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切った後、取りはずしを行ってください。
テレビを取りはずすときは、「スリープ」や「休止状態」にするのではなく、必ず電源を切ってください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『セットアップガイド』

2 テレビの電源を切る

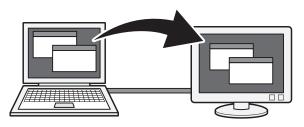
3 パソコン本体とテレビに差し込んであるケーブルを抜く

メモ　HDMI出力端子からテレビをはずしたときは

- HDMI出力端子にテレビを接続し、音声をテレビからの出力に切り替えていた場合は、HDMI出力端子からテレビをはずした後、パソコン本体からの音声出力に切り替えてください。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
  ②［ハードウェアとサウンド］→［Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする
  ③［スピーカー］タブで［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする
  ④［OK］ボタンをクリックする

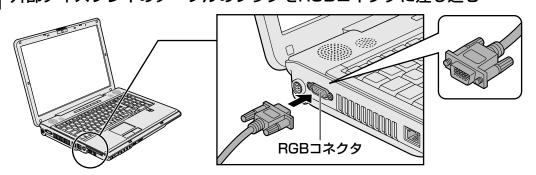
7 外部ディスプレイの接続

RGB(アールジービー)コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

メモ

- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

上の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的に外部ディスプレイを認識します。

4章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 パソコンから取りはずす

外部ディスプレイを取りはずすときは、「スリープ」や「休止状態」にせず、必ず電源を切ってください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『セットアップガイド』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
  - ・クローン表示　・デュアルビュー（Dualview）
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 6-2 表示を切り替える」

「電源オプション」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

切替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法1」や「方法2」を参考にしてください。「方法1」を参考にする場合は、［ディスプレイ設定の変更］画面で［CRT］＊1 または［Laptop Display＋CRT］＊1 を選択してください。

＊1 実際には、接続している外部ディスプレイの名前が表示されています。

参照 表示方法について「本章 6-2 表示を切り替える」

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定にあった色数／解像度で表示されます。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

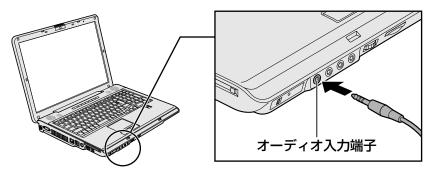
8 オーディオ機器の接続

オーディオ入力端子に、オーディオ機器を接続できます。
市販のオーディオケーブルを使用してください。
オーディオケーブルのプラグは､直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い オーディオ機器の接続にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - オーディオ機器の接続にあたって」を確認してください。

1 オーディオ機器の取り付け

1 オーディオケーブルのプラグをパソコン本体のオーディオ入力端子に差し込む

接続したオーディオ機器から音声を入力するには、設定変更が必要です。「本節 3 オーディオ機器の音声を入力する」を参照してください。

2 オーディオ機器の取りはずし

1 オーディオ入力端子からオーディオケーブルのプラグを抜く

オーディオ機器を取りはずしたときや、マイク入力端子に接続したマイクロホンで録音したい場合は、設定変更が必要です。「本節 3 オーディオ機器の音声を入力する」のメモを参照してください。

3 オーディオ機器の音声を入力する

オーディオ入力端子に接続した、オーディオ機器からパソコンに音声を入力する方法について説明します。
あらかじめ、接続したオーディオ機器の電源を入れておいてください。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ハードウェアとサウンド］→［Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［ライン入力］タブで、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

音声の入力元が、オーディオ機器に切り替わります。
この場合、マイク入力端子に接続したマイクロホンからの音声は入力されません。

5 パソコンに入力したい音声などをオーディオ機器で再生する

メモ

- オーディオ機器を取りはずしたときや、マイク入力端子に接続したマイクロホンで録音をしたい場合は、手順 3 で［マイク］タブを選択し、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックし、マイク入力端子からの入力に戻してください。

9 光デジタル対応機器*の接続

＊光デジタルオーディオ出力端子対応機器

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

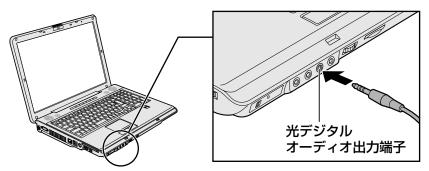
- MDレコーダ
- MDコンポ
- AVアンプ
- ホームシアターシステム
- マルチチャンネルスピーカ　など

参照 「本章 4-2 ヘッドホン」

お願い　光デジタル対応機器の接続にあたって

- あらかじめ、「付録 1-8- 光デジタル対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 光デジタル対応機器の取り付け

1 デジタルオーディオケーブルのプラグをパソコン本体の光デジタルオーディオ入力端子に差し込む

接続した光デジタル対応機器から音声を出すには、設定変更が必要です。「本節 3 光デジタル対応機器への再生」を参照してください。

2 光デジタル対応機器の取りはずし

1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

スピーカから音を出すには、設定変更が必要です。「本節 3 光デジタル対応機器への再生」のメモを参照してください。

3 光デジタル対応機器への再生

光デジタルオーディオ出力端子に接続した光デジタル対応機器（AVアンプ、ホームシアターシステム、マルチチャンネルスピーカなど）から音声を出す方法について説明します。

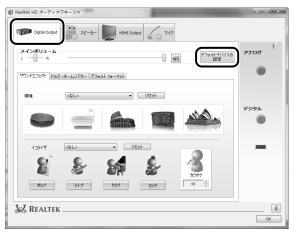
設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ハードウェアとサウンド］→［Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［Digital Output］タブで、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

音声の出力先が、光デジタル対応機器に切り替わります。
この場合、パソコン本体のスピーカから音声は出力されません。

5 光デジタル対応機器の電源を入れる

6 光デジタル対応機器の音量等を調整する

光デジタル対応機器側で、S/PDIF入力からの音声をモニタ・再生できるように設定してください。詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

7 再生したい音楽などをパソコンで再生する

コンテンツの種類（リニアPCM、Dolby Digitalなど）に対応した再生が行われます。

メモ

- 光デジタル対応機器を取りはずしたときは、手順 3 で［スピーカー］タブを選択し、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックし、スピーカからの出力に戻してください。

5章

バッテリ駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認、消費電力を減らす設定について説明しています。

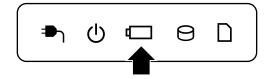
1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。
『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。

Battery LEDは次の状態を示しています。

赤	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 バッテリの充電について「本節 2 バッテリを充電する」
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリ］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリ］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在の電源プランが表示されます。

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリ］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ないことを示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

  参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。
①パソコン本体にACアダプタを接続し、充電する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■充電完了までの時間

状態	時計用バッテリ
電源ON（Power LEDが赤に点灯）	24時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1-9-バッテリを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが赤に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが赤になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリ駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するためにACアダプタを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。
保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』を参照してください。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせる

本製品に搭載されたバッテリをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリの機能低下を比較的遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリの機能低下を比較的遅くすることができます。

- パソコンとACアダプタをコンセントに接続したままの状態で、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプタを接続してパソコンを使用し、バッテリパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリの劣化を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。

バッテリ充電量を節約する方法

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照 「2章 2-2 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 「2章 2-3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力の電源プランを設定する

参照 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックを保管する

バッテリパックを保管するときは、次の説明をお読みください。

- 充電状態の電池を放置しておくと電池が劣化し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この劣化は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリパックを長期保管するときには、風通しの良い涼しい場所に保管し、充電容量を50%前後にして保管することをおすすめします。
- 保管時は、ビニール袋などに入れて電極のショートが起こらないようにし、ダンボールなどの電気を通さない箱に、バッテリパックが重ならないように入れてください。
- バッテリパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 過放電を防止するために、半年に1回くらいの割合で、50%程度の充電をしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境にあわせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。バッテリ駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリが通常よりも長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリ駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリが通常よりも早く消費されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

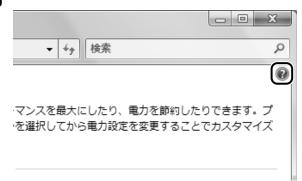
1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ バッテリ設定の変更］をクリックする

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをクリックする

2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

6 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする**

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 **各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする**

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの起動方法

1 **［東芝HWセットアップ］画面上で、知りたい項目にポインタを置く**

項目に対するヘルプが表示されます。

2 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

● Windowsのログオンパスワード
・Windowsにログオンするとき
・インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能「2章 4-2- FN キーを使った特殊機能キー」

● ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード
・電源を入れたときや休止状態から復帰するとき

ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
通常はユーザパスワードを登録してください。
スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOSセットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

● HDDパスワード
・ハードディスクを起動するとき

メモ

● スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
● パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
● パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

● パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。
パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。
この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベッドの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	- = [ ] ; ' , . / ` & （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など ・記号の一部（半角） 【例】|（バーチカルライン） ¥（エン）など	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう1度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザパスワード

「東芝HWセットアップ」でユーザパスワードの設定や、設定の変更ができます。
ユーザパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。

1 ユーザパスワードの登録

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 ［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［登録］をクリックする

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 ［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードは8文字以内で入力できます。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「xxxxx」で表示されますので画面で確認できません。
間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 ［パスワードの確認］に手順 3 で入力したパスワードをもう1度入力し、［OK］ボタンをクリックする

5 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。

メモ

パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

2 ユーザパスワードの削除

ユーザパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 ［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［未登録］をクリックする

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 ［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。
パスワードの入力エラーの場合は、もう1度手順 2 から操作を行ってください。
入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度手順 1 から削除の操作を行ってください。

4 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

3 ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードを変更したい場合は、ユーザパスワードを削除してから、新たに登録してください。

2 スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。
スーパーバイザパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で設定することをおすすめします。

メモ

- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

2 「README.HTM」の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

3 パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードが設定されている場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

■パスワードを入力する

1 設定したとおりにパスワードを入力し、ENTERキーを押す

Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

■指紋認証を使う

1 タッチパッドの横にある指紋センサに指をのせ、手前側にすべらせる

参照 指紋認証「本章 3 指紋認証を使う」

1 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有償での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザパスワードとHDDマスタパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスタパスワードを削除すると、同時にHDDユーザパスワードも削除されます。

■HDDマスタパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスタパスワードはHDDユーザパスワードの代わりに使えます。HDDユーザパスワードを忘れた場合でも、HDDマスタパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。
なお、HDDマスタパスワードのみを登録することはできません。

HDDユーザパスワードとHDDマスタパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDDユーザパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

HDDマスタパスワードの項目は、BIOSセットアップの「内蔵HDD1のパスワードの選択」が「マスタ＋ユーザ」の場合のみ表示されます。
「マスタ＋ユーザ」の場合は、HDDマスタパスワードを設定し、続けてHDDユーザパスワードの設定を行います。

1 **F2キーを押しながら電源スイッチを押し、BIOSセットアップを起動する**

2 **［セキュリティ］メニューを表示する**

3 **カーソルバーを［HDDユーザパスワードの設定］の［Enter］に合わせ、ENTERキーを押す**

カーソルが［新しいパスワードを入力して下さい。］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは8文字以内で入力します。

参照 ユーザパスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに［■］が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTER キーを押す

カーソルが［新しいパスワードを確認して下さい。］に移動します。

6 パスワードを入力する

確認のため、手順 4 と同じパスワードをもう1度入力してください。

7 ENTER キーを押す

［セットアップ通知］画面が表示されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。ENTER キーを押して、手順 4 からやり直してください。

8 ENTER キーを押す

パスワードが設定され、［内蔵HDD1の状態］に［セット］と表示されます。

9 ［終了］メニューから［変更を保存して終了する］を選択して ENTER キーを押し、BIOSセットアップを終了する

設定した内容が保存され、パソコンが再起動します。

4 HDDパスワードの削除

1 F2 キーを押しながら電源スイッチを押し、BIOSセットアップを起動する

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 カーソルバーを［HDDユーザパスワードの設定］の［Enter］に合わせ、ENTER キーを押す

カーソルが［現在のパスワードを入力して下さい。］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 **登録してあるパスワードを入力する**

入力すると1文字ごとに［■］が表示されます。

5 **ENTER キーを押す**

カーソルが［新しいパスワードを入力して下さい。］に移動します。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。手順 4 からやり直してください。

6 **ENTER キーを押す**

ここでは何も入力しません。カーソルが［新しいパスワードを確認して下さい。］に移動します。

7 **ENTER キーを押す**

ここでは何も入力しません。
［セットアップ通知］画面が表示されます。

8 **ENTER キーを押す**

パスワードが削除されます。

9 **［終了］メニューから［変更を保存して終了する］を選択して ENTER キーを押し、BIOSセットアップを終了する**

［内蔵HDD1のパスワードの選択］で［マスタ+ユーザ］を選択した場合は、HDDマスタパスワードの削除を行うと、同時にHDD ユーザパスワードも削除されます。HDD ユーザパスワードのみを削除することはできません。

5 HDDパスワードの変更

1 **F2 キーを押しながら電源スイッチを押し、BIOSセットアップを起動する**

2 **［セキュリティ］メニューを表示する**

3 **カーソルバーを［HDDユーザパスワードの設定］の［Enter］に合わせ、ENTER キーを押す**

カーソルが［現在のパスワードを入力して下さい。］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 **登録してあるパスワードを入力する**

入力すると1文字ごとに［■］が表示されます。

5 **ENTER キーを押す**

カーソルが［新しいパスワードを入力して下さい。］に移動します。
手順 4 で入力したパスワードが正しくない場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。手順 4 からやり直してください。

6 **新しいパスワードを入力し、ENTER キーを押す**

パスワードは1文字ごとに［■］が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
カーソルが［新しいパスワードを確認して下さい。］に移動します。

7 **手順 6 で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTER キーを押す**

［セットアップ通知］画面が表示されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。ENTER キーを押して、手順 4 からやり直してください。

8 **ENTER キーを押す**

新しいパスワードが登録され、［内蔵HDD1の状態］に［セット］と表示されます。

9 **［終了］メニューから［変更を保存して終了する］を選択して ENTER キーを押し、BIOSセットアップを終了する**

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「内蔵HDD1のユーザパスワードの入力」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 **設定したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTER キーを押す**

Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

メモ

- パスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、パスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、パスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、パスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。
- BIOSセットアップの設定を変更する場合は、スーパーバイザパスワードを入力して起動してください。ユーザパスワードを入力して起動すると、変更できる項目に制限があります。

3 指紋認証を使う

本製品には「指紋センサ」と「指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントセキュリティ）」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサ上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバの解除
- パソコン本体起動時のユーザパスワードまたはHDDパスワードの入力
- スリープからの復帰
- ファイルやフォルダの暗号化

詳しくは指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

お願い **指紋認証の操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1-12 指紋認証について」を確認してください。

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、Windows ログオンパスワードが必要です。Windowsログオンパスワードを設定していない場合は、設定してから次の手順に進んでください。

参照 Windowsログオンパスワードの設定方法『Windowsヘルプとサポート』

2 指紋を登録する

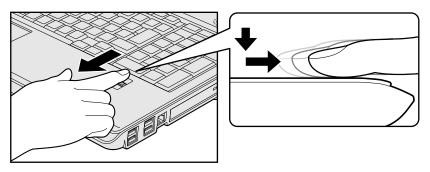
「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。

指紋センサには、最大21パターンの指紋を登録できます。複数のユーザでパソコンを使用している場合は、全ユーザあわせて21パターン登録できます。例えば1人で10パターンの指紋を登録した場合、他のユーザが登録できるのは、計11パターンまでです。

指紋センサに指紋をうまく読み取らせるには

1 **指紋センサに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第1関節を軽く指紋センサ中央の上におく**

2 **第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサに触れるように手前に水平に引く**

指先だけ指紋センサにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサに触れるように、ゆっくりとスライドさせてください。

1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザ登録を行います。ユーザ登録では、Windowsのユーザアカウントとそのログオンパスワードを登録した後、そのユーザアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。また、登録したWindows ログオンパスワードは、「指紋認証ユーティリティ」の各種機能を使用するためのマスタパスワードとしても使用します。

メモ

- Windowsログオンパスワードは指紋認証の代わりに使用できますが、指紋のユーザ登録など一部の機能はWindowsログオンパスワードで代用することはできません。

1 **指紋を登録するユーザアカウントでログオンする**

2 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Protector Suite QL］→［ユーザー登録］をクリックする**

初めて起動したときは、［指紋ソフトウェア使用許諾契約書］画面が表示されます。内容を確認後、［使用許諾契約書に同意します］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。
2回目以降は、［ユーザー登録］画面が表示されます。通知領域の［Protector Suite QL］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから［指紋を編集］を選択しても［ユーザー登録］画面を起動することができます。

3 ［次へ］をクリックする

［ユーザーのパスポート］画面が表示されます。このとき、既に指紋を登録してある場合は［パスワード］画面が表示されます。指紋センサに指紋登録済みの指をすべらせるか、パスワードを入力して［次へ］をクリックしてください。その場合、手順 5 へ進みます。

4 ［パスワード入力］欄にWindowsログオンパスワードを入力し①、［次へ］をクリックする②

［指紋登録のヒント］画面が表示されます。画面に表示される指紋登録のヒントを、よくお読みください。

5 **［対話型チュートリアルを実行する］がチェックされていることを確認し①、［次へ］をクリックする②**

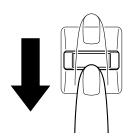
［正しい読み取り手順］画面が表示されます。

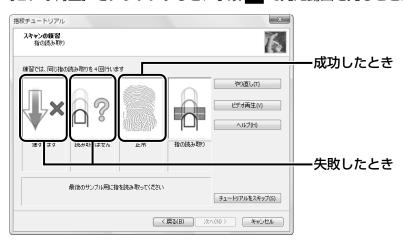
6 **画面に表示される説明と動画をよく見て、［次へ］をクリックする**

動画は1回再生した後停止しますが、［ビデオ再生］をクリックするともう1度再生されます。

［スキャンの練習］画面が表示されます。

7 タッチパッドの右にある指紋センサに指を軽くのせ、手前側にすべらせる

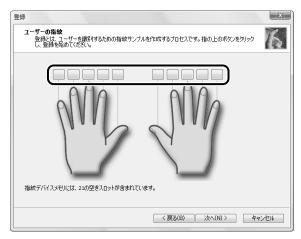
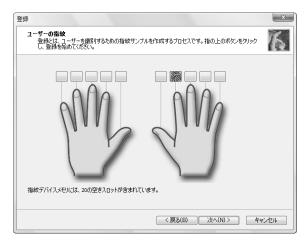
第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。

しばらく指の認識を行わないと、エラーメッセージが表示されます。［OK］をクリックして指の認識を行ってください。

同じ指を4回認識させてください。指紋センサに指をすべらせると、画面の4つのボックスに、1回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。
［ビデオ再生］をクリックすると、手順 6 で見た動画を見ることができます。

4回実行した後、何回かうまく読み取りができなかった場合は、やり直しを勧めるメッセージが画面下部に表示されます。［やり直し］をクリックし、もう1度手順 7 を実行してください。4回とも指紋データの読み取りに成功すると、「練習問題に合格しましたので、登録する準備ができました。」と画面下部に表示されます。

8 ［次へ］をクリックする

［ユーザーの指紋］画面が表示されます。

9 登録する指を示すボックスをクリックし、タッチパッドの右にある指紋センサに登録したい指の第1関節を軽くのせ、手前側にすべらせる

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することをおすすめします。

第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。同じ指を3回読み取らせます。画面中央に読み取り画面が表示され、1回指紋読み取りが成功するごとにチェックがつきます。3回とも指紋の読み取りができたら、「成功」と認識画面の下部に表示され、登録した指を示すボックスに指紋イラストが表示されます。
読み取り画面が表示されてから2分以内に指紋登録を行わないと、エラーメッセージが表示されます。［OK］をクリックして、指紋登録を行ってください。

以前登録した指を再び登録した場合は、新しく登録した指紋データで上書きされます。

10 違う指で手順 9 を繰り返す

最低でも2本の指を登録してください。

11 ［次へ］をクリックする

パスワードの登録を勧める画面が表示されます。

12 ［OK］をクリックする

［拡張セキュリティ］画面が表示されます。

13 拡張セキュリティを使用する場合、必要な設定をする

拡張セキュリティ機能を有効にすると、登録したユーザデータなどを保護キーを使って暗号化し、セキュリティを強化することができます。この機能を使用しない場合は、［現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする］のチェックをはずし、手順 15 へ進んでください。

拡張セキュリティ方式を有効にするには［現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする］をチェックし①、［拡張セキュリティタイプ］で使用したい項目を選択してください②。

6章 システム環境の変更

14 ［セキュリティデバイスが動作しない場合に使用するバックアップパスワードを有効にする。］をチェックし①、パスワードを入力する②

ここでバックアップパスワードを設定しておくと、拡張セキュリティを設定している状態で指紋センサがうまく動作しない場合や指紋をうまく読み取れない場合に、キーボードからのパスワード入力で認証させることができます。

拡張セキュリティ機能を使用する場合、バックアップパスワードを設定しておくことを強くおすすめします。推測しにくい、長いパスワードを設定してください。拡張セキュリティ機能を使用している場合、指紋認証の代わりに使用できるパスワード入力は、次のようになります。

B ：バックアップパスワードで代用
W ：Windowsパスワードで代用
× ：パスワードによる代用不可能

	指紋データ削除	インポート／エクスポート	ユーザ設定
バックアップパスワード有り	B	B	×
バックアップパスワード無し	W	W	×

いずれも、指紋認証をキャンセルしたときにパスワード入力画面が表示されます。

参照 拡張セキュリティ機能の詳細
《指紋認証ユーティリティのヘルプ（検索）：拡張セキュリティ》

15 ［次へ］をクリックする

［終了］画面が表示されます。

16 ［完了］をクリックする

指紋登録が完了し、［ようこそ］画面が表示されます。さまざまなメニューが表示されるので、知りたい情報をクリックしてお読みください。すぐに読まない場合は、［閉じる］をクリックして［ようこそ］画面を終了してください。

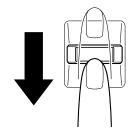
3 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサに指をスライドさせることで、Windowsへログオンできます。また、パソコンを複数のユーザで使用している場合、ユーザの選択も省略できます。

1 操作方法

1 パソコンに電源を入れる

Windowsにログオンする画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第1関節を指紋センサの上にのせ、手前側にすべらせる

指紋が認証されると指紋認証画面に［成功］と表示され、Windowsにログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、警告メッセージが表示されます。また指紋認証を連続して5回以上失敗すると、約2分の間、指紋認証を使用できなくなります。指紋認証がうまくいかない場合は、キーボードからパスワードを入力して、Windowsにログオンしてください。

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

■パソコンの起動時（パワーオンセキュリティ）

パソコンの起動時に、ユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに、指紋認証を使用することもできます。事前にユーザパスワードやHDDパスワードを登録しておいてください。

メモ

- パワーオンセキュリティを使用するためには、ユーザパスワードの登録が必要です。

参照 ユーザパスワード、HDDパスワードの登録方法「本章 2-4 HDDパスワード」

また、指紋認証をユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに使用するための設定も必要です。

参照 設定の詳細《指紋認証ユーティリティのヘルプ（検索）：パワーオンセキュリティ》

ユーザパスワードやHDDパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。
また指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は BACKSPACE キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

お願い　指紋認証のパスワード入力について

- あらかじめ、「付録 1-12- 指紋認証のパスワード入力について」を確認してください。

■スクリーンセーバの解除

次のように設定します。

① [スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］→［ デスクトップのカスタマイズ］をクリックする
② [スクリーンセーバーの変更］をクリックする
③ [再開時にログオン画面に戻る］をチェックする
④ [OK］ボタンをクリックする

■スリープからの復帰

次のように設定します。

① [スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］→［ バッテリ設定の変更］をクリックする
② [電源プランの選択］で選択されているプランの［プラン設定の変更］をクリックする
③ [詳細な電源設定の変更］をクリックする
④ [追加の設定］の［復帰時のパスワードを必要とする］で、［バッテリ駆動］および［電源に接続］を［はい］に設定する
⑤ [OK］ボタンをクリックする

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 設定の詳細《指紋認証ユーティリティのヘルプ（検索）：登録のエクスポート/インポート》

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

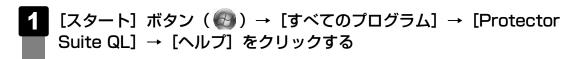
パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。

参照 指紋データの消去《指紋認証ユーティリティのヘルプ（検索）：既存の登録の削除》

メモ

- パスワードバンク（インターネットのホームページで指紋認証によるID、パスワードを入力する機能）は、Internet Explorerで動作します。

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Protector Suite QL］→［ヘルプ］をクリックする

7章

パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分

● **アプリケーションソフトウェアとは**
メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（ワード）（文書作成ソフト）やExcel（エクセル）（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● **システム、ドライバとは**
システムは、オペレーティングシステム、OS（オーエス）とも言い、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows Vistaです。
ドライバは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバに、ディスプレイドライバやサウンドドライバ、マウスドライバなどがあります。基本的なドライバは、システムが標準装備していますが、周辺機器によっては、専用のドライバが付属されている場合があります。

● **ハードウェアとは**
バッテリやACアダプタはもちろん、画面（ディスプレイ）、キーボード、ハードディスク、CPUなど、パソコン本体を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状にあわせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム、ドライバ→パソコン本体の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書には、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

「dynabook.com」へ接続し、各種サポート情報から解決方法を探します。

参照 dynabook.com「本節 3 トラブル事例を見てみる」

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

3 トラブル事例を見てみる

東芝パソコン全体の「よくあるご質問 FAQ」や、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。

URL：http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

よくあるご質問FAQ
パソコンの操作に困ったときに、解決方法を探すことができます。

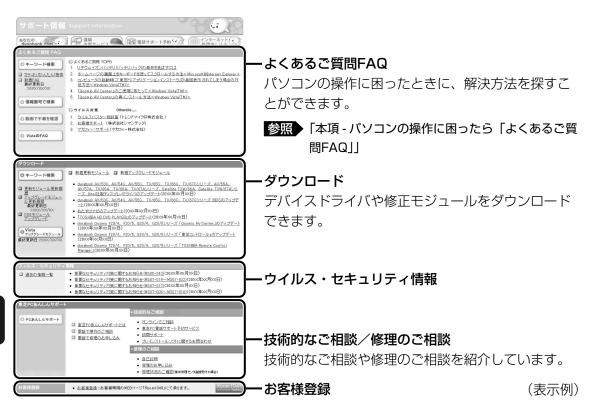
参照 「本項 - パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問FAQ」」

ダウンロード
デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。

ウイルス・セキュリティ情報

技術的なご相談／修理のご相談
技術的なご相談や修理のご相談を紹介しています。

お客様登録

（表示例）

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

■パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 FAQ」

「よくあるご質問 FAQ」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。

（表示例）

キーワード検索では、条件の選択やキーワードや文章を入力して、検索できます。

（表示例）

■メールで質問する「東芝PCオンライン」

「よくあるご質問 FAQ」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24時間365日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。
ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしてください。

参照 「付録 3 お客様登録の手続き」

1 「よくあるご質問 FAQ」で解消方法を探す

2 「A. 回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える

「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。

3 ［送信］ボタンをクリックする

東芝PCオンラインへのリンク画面が表示されます。

4 「東芝PCオンライン」をクリックする

画面の説明に従って専用フォームからご質問ください。
メールにてご回答させていただきます。
質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただくことがございます。ご了承ください。
この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』

■モジュールのダウンロード

デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。
「ダウンロード」から検索できます。［キーワード検索］では、本製品のシリーズ名などを選択すると、モジュールの情報が一覧表示されます。
OSをアップグレードしたい場合は、OSにあったモジュールをダウンロードしてください。

（表示例）

メモ

- 相談窓口やPCのリサイクル、お客様登録については、『東芝PCサポートのご案内』にも詳しく紹介されています。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーや CTRL キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN ＋ F5 キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4章 6-2-2 方法2－FN＋F5キーを使う」

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN ＋ F7 キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください＊1

FN ＋ F6 キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

FN キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

［電源オプション］には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。

詳細は、［電源オプション］のヘルプを参照してください。

次の手順で設定を変更してください。＊1

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

②［ システムとメンテナンス］→［ 電源オプション］をクリックする

③利用するプランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする

④［ディスプレイの輝度を調整］を設定する

［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。

⑤［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

2 キーボード

Q ポインタが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが輪の形（◎）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

① FN＋F9キーを押す
[タッチパッド] のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、[無効] アイコンが大きい状態で指をはなす

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスにご相談ください。
保守サービスへの相談は『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

3 タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

① FN＋F9キーを押す
　［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［有効］アイコンが大きい状態で指をはなす

参照 タッチパッドについて「2章 3 タッチパッド」

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ マウス］をクリックする
　［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③ ［ボタン］タブで［ダブルクリックの速さ］のスライダーバーを左右にドラッグする
④ ［OK］ボタンをクリックする

Q ポインタの速度を調節したい

A 次の手順でポインタの速度を変更してください。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ マウス］をクリックする
　［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③ ［ポインタオプション］タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする
④ ［OK］ボタンをクリックする

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインタがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 指紋認証

Q 指紋の読み取りがうまくいかない

A もう一度正しい姿勢で操作してください。

詳しい操作方法は、「6章 3 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「6章 3 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「6章 3 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサの表面がよごれていないか確認してください。
よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう一度指紋認証を行ってください。

参照 詳細について「6章 3 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。
指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、他の指で登録してください。

参照 詳細について「6章 3 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。
指を指紋センサと平行になるように置き、指紋センサに指の中央を合わせてください。指紋センサの上に第一関節がくるように置き、スライドするときはゆっくりと一定の速さでスライドしてください。それでも認証できない場合は、指をスライドさせる速さを調整してください。

参照 詳細について「6章 3 指紋認証を使う」

5 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 1 - 注意制限事項を確認する」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割される場合、分割されるこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

4 CDやDVDについて

CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「2章 6-3- ディスクトレイが出てこない場合」

- ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。

DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

5 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインタフェースを使用するとき、1000BASE-T規格は、エンハンストカテゴリ（CAT5E）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。100BASE-TX規格は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
  10BASE-T規格は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

6 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

付録

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる
　悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
　　IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
　　メールの内容
　などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

・不正に侵入される
　悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
　　個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
　　特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
　　傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
　　コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
　などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

セキュリティ機能

- セキュリティ機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。
  不正アクセスを防ぐために、ネットワーク名（SSID）の設定や、暗号化機能（WEP、WPA）を設定されることを強くおすすめします。
  また、お使いの無線LANアクセスポイントで、登録したMACアドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。
  公共の無線LANアクセスポイントなどで使用される場合は、「Windowsファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、『取扱説明書 付録 5 無線LANについて』を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、『取扱説明書 付録 5-7 ご使用になれる国／地域について』を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピュータすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

7 内蔵モデムについて

＊モデム内蔵モデルのみ

内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

8 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビと接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビへの表示は保証できません。
  テレビによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときにDVD-Videoを再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかだけに表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示で外部ディスプレイをプライマリデバイスに設定した場合、スリープや休止状態のときにテレビ／外部ディスプレイをはずさないでください。スリープや休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されず、操作ができなくなる場合があります。

i.LINK（IEEE1394）対応機器の操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。

- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他のi.LINK対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。
  i.LINK対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないとき、またはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのi.LINK対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべてのi.LINK対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400対応）を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカにお問い合わせください。
- 取り付ける機器によっては、スリープまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードとAC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スリープまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、i.LINK対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のi.LINK対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

ExpessCardの操作にあたって

- ホットインサーションに対応していないExpressCardを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- ExpressCardには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。ExpressCardを取りはずす際に、ExpressCardが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからExpressCardを取りはずしてください。
- ExpressCardの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにExpressCardを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

オーディオ機器の操作にあたって

- すべてのオーディオ機器の動作確認は行っておりません。
  したがって、すべてのオーディオ機器の動作は保証いたしかねます。

- お客様がオーディオ入力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、オーディオ入力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。

光デジタル対応機器の操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。
  したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
  パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
  ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
  - ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
  - ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」で「コピー禁止」のDVDを再生した場合や、著作権保護機能（SCMSに準拠）を持つプレーヤでCDや音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。
  SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽CDからMDに録音することはできますが、録音したMDからさらに他のMDに録音することはできません。

9 バッテリについて

バッテリを充電するにあたって

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

10 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD／DVDに書き込む前に

CD／DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
CD／DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD／DVDの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD／DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込むときには、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。

参照 CD／DVDについて「2章 6 CDやDVDを使う」

- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバ
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・音楽CDやDVDの再生アプリケーション
  ・モデムなどの通信アプリケーション　　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモリカード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 本製品に付属している「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-Audioを作成することはできません。

- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳細は「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Video を「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成されたメディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R からCD-R、CD-RWへバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、他のソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。

書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを確認（簡易チェック）するように設定されています。

  次の手順で確認できます。

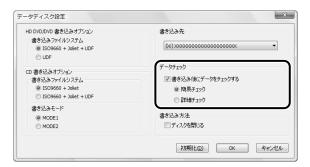
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creator］をクリックする

  「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。

  ② ［データディスク作成］をクリックする

  ③ メインウインドウで［設定］をクリックし、［書き込み設定］→［データディスク設定］をクリックする

［データディスク設定］画面が表示されます。

④［データチェック］で［書き込み後にデータをチェックする］がチェックされているか確認する
［簡易チェック］と［詳細チェック］を選択することができます。

11 DVD-Videoついて

DVD-Videoの再生にあたって

● 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
● 家庭用DVDレコーダで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
● DVD-Videoの再生には、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Videoを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「TOSHIBA DVD PLAYER」を起動し、DVD-Videoを再生してください。
● DVD-Video再生ソフト「TOSHIBA DVD PLAYER」は、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
● DVD-Video再生時は、なるべくACアダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は電源プランで「バランス」を選択してください。
● DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「TOSHIBA DVD PLAYER」を最大表示にしてください。
● Region（リージョン）コードは4回まで変更することができますが、通常は出荷時のままご利用ください。
出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
● 外部ディスプレイまたはテレビに表示するときは、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、クローン表示設定でDVD-Videoを再生することはできません。

参照 表示装置の切替え「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

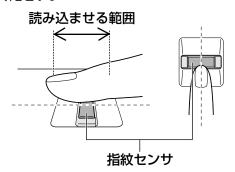
● デュアルビュー（Extended Desktop）でDVD-Videoを再生した場合、外部ディスプレイ側のDVD-Video再生画像が表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてご使用ください。

その他の注意については、「TOSHIBA DVD PLAYER ヘルプ」に記載しています。
「TOSHIBA DVD PLAYER ヘルプ」の起動は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA DVD PLAYER］→［TOSHIBA DVD PLAYER ヘルプ］をクリックしてください。

12 指紋認証について

指紋認証の操作にあたって

指紋センサは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサ表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
  - ・指紋センサ表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
  - ・指紋センサ表面を強く押す
  - ・濡れた手で指紋センサ表面を触る
    指紋センサの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
  - ・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサ表面を触る
    砂などの小さい物でも、指紋センサを傷つける場合があります。
  - ・指紋センサ表面にシールなどをはる
  - ・指紋センサ表面に鉛筆やボールペンなどで書く
  - ・指紋センサ表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
    特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサの故障原因になります。
  - ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサの汚れをふき取る
    このとき、洗剤は使用しないでください。
  - ・指と指紋センサが横から見て平行になるように指を置く
  - ・指紋センサと指の中央を合わせる
  - ・指紋センサの上に第一関節がくるように置く
  - ・スライドするときにはゆっくりと一定のはやさで手前にスライドさせる
    それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
  - ・右の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
  - ・濡れている
  - ・けがをしている
  - ・ふやけている
  - ・荒れている
  - ・汚れている
    指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
  - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサの表面が汚れていないか確認する
    汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサ表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する
    傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、他の指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意する
- その他
  - ・2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、他の指を登録してください。
  - ・指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
  - ・指紋認証機能は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

付録

Windowsログオンパスワードの設定について

- パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザアカウントが他にあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定した他のユーザアカウントがない場合は、リカバリをしてください。リカバリをすると、購入した後に作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 『Windowsヘルプとサポート』

指紋認証のパスワード入力について

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザパスワードやHDDパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

2 メディアについて

メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。
本製品では、モデルによって次のメディアを使うことができます。

- CD
- DVD
- SDメモリカード
- メモリースティック
- マルチメディアカード
- SDHCメモリカード
- メモリースティックPRO
- xD-ピクチャーカード

SDメモリカード、SDHCメモリカード、メモリースティック、メモリースティックPRO、xD-ピクチャーカード、マルチメディアカードで使用できる容量については『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカ

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』でメディアの使用推奨メーカを確認してください。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

2 使えるDVDを確認しよう

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1　一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊2　2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカ

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、『dynabook Satellite WXWシリーズをお使いのかたへ』でメディアの使用推奨メーカを確認してください。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれのメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 メディアカードを使う前に

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディア LEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。

2 SDメモリカード／SDHCメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずminiSDアダプタを装着した状態で行ってください。
  miniSDメモリカードにminiSDアダプタが付いている場合は、付属のminiSDアダプタをご使用ください。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDアダプタに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

SDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットについて

- Windows上（［コンピュータ］画面）でSDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカード／SDHCメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカード／SDHCメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。
- 「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットするときは、「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカード／SDHCメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

3 メモリースティックを使う前に

- 本製品は、メモリースティックDuo、メモリースティックPRO Duoとメモリースティックアダプタには対応していません。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

4 xD-ピクチャーカードを使う前に

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

5 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

4 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（フロッピーディスク、半導体メモリ、CD、DVDなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザ）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザ登録」といいます。
お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法1 - ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。すでにインターネット接続の設定がしてあり、インターネットを使ったことがあるかた向けの方法です。

■方法2 - インターネットからのご登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
すでにインターネット接続の設定がしてあり、インターネットを使ったことがあるかた向けの方法です。
登録用ホームページ：http://room1048.jp

■方法3 - インターネットにすぐに接続されないお客様

まだインターネット接続の予定がないかたは、『お客様登録カード』（はがき）で仮登録を行ってください。後日インターネットで正式なTID登録を行っていただく必要があります。

参照 インターネット接続「3章 1 ネットワークで広がる世界」

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。
ここでは、「方法1」と「方法3」を紹介します。

1 [東芝お客様登録]アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダとの契約をしてある場合に、本製品に添付のアプリケーションを利用して、TID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続しているあいだの通信料金やプロバイダ使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で、gooスティックの利用を確認する[東芝dynabookをご利用の皆様へ]画面が表示されます。
  gooスティックを利用する場合は、[利用規約を表示]をクリックし、利用規約を確認したあと[便利なgooスティックを利用する]をクリックしてください。
  利用しない場合は、[利用しない]ボタンをクリックし、あとでgooスティックをアンインストールしてください。

1 デスクトップ上の[東芝お客様登録]アイコン( )をダブルクリックする

[「お客様登録」のお願い]画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

2 インターネットにすぐに接続されないお客様

付属の『お客様登録カード』(はがき)に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。
東芝TID事務局より、「お客様登録番号」とTID登録用の「仮パスワード」をはがきにて通知いたします。はがき通知後、インターネットからTIDをご登録ください。
TIDはインターネットからのご登録受付になります。

- **初めてTIDをご登録される方**
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp」にアクセスし、[「お客様番号」をお持ちのお客様]ボタンをクリックし、通知はがきに記載されている「お客様番号」と「仮パスワード」を入力してTID登録を行ってください。
- **すでに他商品でTIDを取得された方**
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp」にアクセスし、「Room1048」にログインしたあと、[登録情報変更]→[ハガキを受け取られたお客様]を選択してください。

4 技術基準適合について

■高調波対策について

180/120W ACアダプタ使用モデル：JIS C 61000-3-2適合品です。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 「7章 2-5 -Q：パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

■FCC information

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor port, Universal Serial Bus (USB2.0) ports, i.LINK (IEEE1394) port, HDMI out port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

モデム使用時の注意事項

＊モデム内蔵モデルのみ

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007, AN009,AN010 and DE03,04,05, 08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.
NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
CANADA:4005B-DELPHI

付録

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.
To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.

c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

5 各インタフェースの仕様

1 i.LINK（IEEE1394）インタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TPB−	ストローブ受信／データ送信（2対の差動信号）	
2	TPB＋	ストローブ受信／データ送信（2対の差動信号）	
3	TPA−	データ受信／ストローブ送信（2対の差動信号）	
4	TPA＋	データ受信／ストローブ送信（2対の差動信号）	
コネクタ図			

1 2 3 4

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	−	ノーコンタクト	
2	−	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	−	ノーコンタクト	
6	−	ノーコンタクト	
コネクタ図			

654321

信号名　　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 RGBインタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VCC	＋5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

1 2 3 4

信号名　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（＋）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（－）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（＋）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（＋）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（－）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（－）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（＋）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（－）	I/O
コネクタ図			

87654321

信号名　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

6 S-Video出力インタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	C信号	色信号	O
2	Y信号	輝度信号	O
3	GND	信号グランド	
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

7 HDMI出力端子

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ（2+）	O
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ（2）シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ（2−）	O
4	TMDS Data1+	TMDSデータ（1+）	O
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ（1）シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ（1−）	O
7	TMDS Data0+	TMDSデータ（0+）	O
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ（0）シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ（0−）	O
10	TMDS Clock+	TMDSクロック（+）	O
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック（−）	O
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	SCLデータクロック信号	O
16	SDA	SDA通信信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I
コネクタ図			

2　18

1　19

信号名　　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

6 内蔵モデムについて

＊ モデム内蔵モデルのみ

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- **取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに保管すること**
  誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠注 意

- **モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから、行ってください。
- **パソコン内部にネジや異物を残さないこと**
  火災、発煙のおそれがあります。

お願い

- モデムボードの取り付け／取りはずし、PTTラベルの確認以外の目的でパソコン本体のモデムカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【モデムボードの取り付け／取りはずしの前に】

次の作業を行ってから、モデムボードの取り付け／取りはずしを行ってください。
①データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
②パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類を取りはずす
③ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ハードディスクドライブのカバーをとめているネジ2本を取りはずす
⑤ハードディスクドライブのカバーを取りはずす

【モデムの取り付け】

①モデムボードにケーブルを取り付ける
②メイン基板にモデムボードを取り付け、モデム固定用のネジ2本でとめる

【モデムボードの取りはずし】

①メイン基板にとめているモデム固定用のネジ2本を取りはずし、モデムボードを取りはずす
②モデムボードからケーブルを取りはずす

【モデムボードの取り付け／取りはずしの後に】

①ハードディスクドライブのカバーをネジ2本を取り付ける
②バッテリパックを取り付ける